



松屋叢書

初編

五七五

15

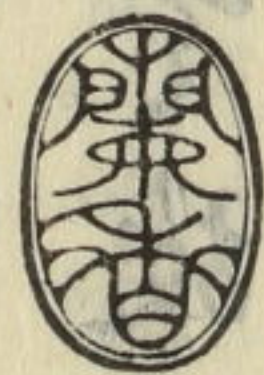
1402

1





松屋叢話序



姚寬西溪叢話。俞成瑩雪浪齋說。
解釋經史。品隲風騷。皆能啟後
生之知見。獨若溪漁隱叢話。評論
詩詞而已矣。維其浩博繁富。如
林叢之美。與堯山堂外記。實詩話
中之大觀也。夫叢者。叢睦也。裨官
野乘。胙記媵說。皆可謂之叢矣。是



高田早苗
壬午年正月

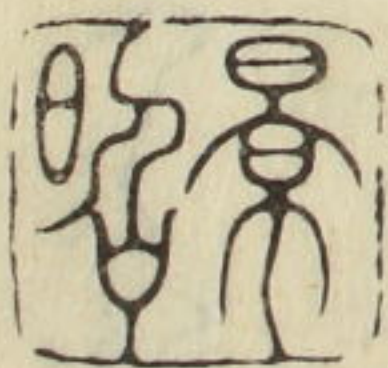
故說部之以叢名。不啻數十家也。高田文儒松屋叢話。久不出待歌書畫。善若溪之流也。文儒為人豪爽。不拘細行末節。不修小廉曲謹。昂々然有晉人之風度焉。雖然。其為學也。師事吾友織錦平士觀。精于國學。瀏覽博觀。以考證精確為務。是以故一物必搜其

淵源。一事必究。其沿革。平生左右圖書。從事鉛槧。如獺祭魚。耽耽窮年。是其所長也。以此書出于其一時游戲三昧耳。雖然。自古文人才子。多窮少達。能刻其集以鳴一時者。僅々乎無幾。銜恨九泉者。此皆是。文儒之作此書。不以名高之士為主。務別扶幽沉。覓

羅放佚表章。之力。不為不多矣。
所謂拾文湫之遺珠。發潛德之
幽光者乎。非耶。昔時碩使君
刻元侍選成。家有五六歲童子。
忽舉手外指曰。弓衣冠者數百
人。望門跪拜。是董曲江紀曉嵐
所傳言。雖涉神怪。固理所宜
有也。其言不為怪風化矣。予知

此書刻成之日。松屋窓外。必當
有好名鬼。來而羅拜焉。
文化甲戌孟夏多稼老人大田
元貞才佐撰

女晉蘭香謹書





題辭

久たちし海客しをむといふよ
なしくし君の夢も笑やひと
いふ一のあそびもやに越ひつ
おとそれたにとけあし君のそ
光し海客しよりいふくいの理
あしつれめやる子くし海客

東の秋のもれを、英ちそ一夢もれ
予よにねまゐる、夢の事不寝の
さかすりやうらほと方秋の野乃
子くさい中城ゆゑくさくさ

むら田の島勢子

松屋業談乃者一詞

ふとて解えから人もいふの事
東の事な家よりくさくさ一も
契くふふりや、中城の事
なむむ、けさあはるさあさる
もさか、くさくさふれ、の事
さかちあつるは、中城の事
くさるあ、なるも、くさる

ら終つてゝ此の世の世に
ゝるものも未だ此の世に
与清めゝ何れも此の世に
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ

此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ
此の世にゝるものも未だ

けりまの初もつち―出せ―は
玉―のふもとの都人藤原に
あまの―清も―さうりて又
あはるは夢の庭林に

松屋叢話卷第一

目録

蒲生氏郷千宗易贈答歌の話

村田春海の詩

橘千蔭が許へ小澤蘆菴が歌とよせ話

妙法院宮の御歌並吾妻へとよめり時の話

古屋鼎が詩

上野國沼田里の尼圓珠が歌雲上とて聞え話

龍公美十三歳よて詩にうけける話

山本正臣が詩歌

高田友清の傳

田中本孝の傳

嶋原の游女珊瑚が歌と武者小踏實陰卿の歌

山本信有が詩

龜田長興が詩

大田覃が詩歌

千枝子チエコの歌の歌あり話

伊勢人森田興枝イセノヒコの歌と平春海ヘイハルミの歌書て

天龍寺の僧龍尊と木村主馬キムラヌマの名歌とける話

よの子が歌並木曾路記の話

村田忠之が哥

村田忠享が哥

村田春道が哥

楠後忠積が哥

村田春郷が歌並蹴鞠の歌とどろり話

小澤蘆菴が歌

冷泉為村卿の歌

平發廉が歌と王莽が鏡の話

片倉元周が歌と研スリの話

塩瀬諸鳥が歌

橘枝直が歌

尾張國三田茂左衛門が妻の歌並然が尼

詩話

孫子六韜三略の古本の話

日本書紀の古寫本の話

加藤清正朝鮮分捕の農事直説の話

源義家朝臣八幡太郎と号せし事

鮑のまづげといふ語の考

眞養の名考

養子ととりごとといふ事

服部元喬物部茂卿が秀句うゝひ話

詩の賦物

神前めく南無と唱へる例

祝言は櫻花と忌事

蓬が杣といへる事

近江國老蘇の杜の考

角田川の訓例

周の文王の行迹心得ぬ事

屋形号の由来

紙燈よべんく艸と懸繋ぐ事

ろくろせり傳の事

白大夫が事

武藏國行田はなりごとといふ事

文章の話

南朝の年号

儒釋の徒よきくせといふ話

松屋叢話卷第一

江戸

源與清文儒著

美濃

梁卯伯兔校

蒲生氏郷やまゐの床トコはおけゝる時。千宗易とぶ
らひ来よげと。そを茶藝の師シあゝ。日頃ヒノケとごと
なもて人ヒトは枕邊マクラフバはあねをていであゝ。
よげよものごめちとせしはあり。宗易ソウイあうゝるを。
君キミはあなう操刺ソウサツゝる性サガよて。天の下ソラノタラいたるは
そくちとてものふはあせしイクサバが。戦場イクサバはこれ年月を
おろりし。雨アメは浴ユ。風フウは梳スリて。ほゆをありやをき
間マもたかくあかゝゝたあゝゝと。今イマかゝれ
やまゐの志シもあせとあゝゝと。なと。なと。

上野の沼田に里よみとあるありか
たしと云ふといふ御製と云ふと云ひ
らと云ふ人いふと云ふと云ふと云ふ

龍公美字ハ君玉。號と草蘆といひげにハ山城國
伏見人なり。かゝる名高くて草蘆集七編
を著せり。あつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつてはあつて
あつてはあつてはあつてはあつてはあつて
一望白雲長。歸心不爲尊。驢美哀白慈親在故
郷と云ふと云ふ。唐の狄仁傑。晋の張翰。故吏と
相いせ。毛詩の辭など用てをかくわやせり

り。人々をわてあへるなり。

山本大膳權亮藤原正臣ハ世々大炊御門右府に
御館にいらり。字欽若。號をば清溪と
ぞよぶ。和漢の字ハ心をとよせて。あつてはあつては
後藤世鈞が書ける元明史略ハ増補と云ふと云ふ
わでと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
泣俎上。兩子落車前。如何矣。漢德千載照青編
まゝ夢中落花といへる題の哥よ。

梓弓岳の野山を歩ひてあはれまゝなりと云ふの
ちるとんやらん

余が祖高田茂右衛門源友清といへるハ都人なり。江
戸ハ廿六所の宅地とありていと富と云ふと云ふ

をばけり。あまのつゆや清和源氏より。鎮守府將軍滿仲の弟。治部少輔滿政七代に孫。高田次郎重宗といひり。世々播磨國より。後醍醐天皇は。建武の頃。高田六郎左衛門尉知方。その後民間より。年々。都。享保十三年。下總國手賀沼を決て新田とむ。んぞせし。沼深く堤築こと。かたんとあり。友清撰より。黄金を。いも。京江戸の宅地家財器用より。賣。費。遂。その功を

終。二万石。新田。朝廷。その功を賞。二千石の米地賜べき。館林。君。寛氏。井澤氏。辭。申。同十五年。武藏國足立郡。見沼。鈴木氏の家。養。弟。文平。胤秀。見沼の新川。舟。享保十六

年^{トモ}は足立^{アタチ}・埼玉^{サイタイ}二郡の内にて六所の地を有^{トモ}い。江戸神田川^{カヌダガハ}のほとりにも邸^{ヤシキ}を賜^{タマヒ}いて見沼川の運漕主事^{ウンソウシュジ}もたせけらしめたりと云ふ也。今与清がすまゐる通船屋敷といふ所。その時よりともなりき。友清^{トモスミ}の子と宇右衛門知安^{トモヤス}といふ。その弟宇右衛門好昌^{ヨシサ}。その子秀三郎与成^{トモシゲ}。その子元三郎友氏^{トモウヂ}。友氏はありて勘當をうけし後、与清養子となつて家を治むべきなり。友清^{トモスミ}のゆゑに六代^{ムツギ}になんされたり。友清^{トモスミ}和漢の学よ心をこめてせしむ。其の著稿^{シタカキ}やうやくありしを兵法算術^{ヘイポサンジュツ}とて通^{ワタス}せしむ。備急雄略^{ビユウユウリョク}といふ書を一一よくその著稿^{シタカキ}やうやくありしを秘^ヒする。其集^{シツ}

一卷ありしを。いふらん今もええぞ
なりぬ吉野川の船は流るゝとまよふへ
船四十艘流るゝと見沼川より一
時

余が實父は武藏國多摩郡小山田の里人にて田中
忠右衛門源本孝モトタカとの。安田遠江守義定の子。
田中越後守義資ヨシシズの後にて世々越後國をもち
し。永正元年。大炊介義綱ヨシツナはやく武藏國
あぐさしりをもつ。義綱より彈正善昌ヨシニサ和泉義純ヨシズミ
宗右衛門某。喜四郎政喜セイシ佐次右衛門政訓セイサまで。

六代歴て本孝といふなり。本孝字ハ笠父。號を添水園とぞいひける。その菴は名流るゝ説は橘千蔭が書なり。詞ハとれり。歌を。

小山田此山田のそはづかづーほ秋ふぬは
あちやうえなん。本孝和漢の書一り。そのうりく
詩歌俳諧哥よ心とぞうめり。家集二卷。添水
園隨筆二卷あり。戒心といへる題のかうり。
他物無貪自物全。世間寄食幾何年。乞心都是
失人愛。仙窟龍王去不還。俳諧發句一り。題を
ももといふなり。

むしりもあも獨好せーう女ふゆふ。
死王母清あで極をわーけを。

菊の枕をつりてよめり。

いざとめて愛むるをなんやあれ齡延てふ

さくの小枕。

京都の嶋原の花街に游女は珊瑚といへるあり

なり。そぞろがうり。

そぞろやうもたしや今も此つまなんさうえ
なませよあなを身は。とよみうけり。と。
武者小路實陰卿はこもいひく。いぞ
あそもよやおもひく。

川いけのうきか中もあそびれさになさげの
うきえんえなり。といひれを人としていひる。

山本信有世稱をば喜六といふ。北山といへるはの號

孝經樓といへるはその家此名をみづる孔子学
とせしむる世といふ文かくる韓退之
蘓子瞻よりみりといへる常は豪俠とあつて
くみり。浅草今戸に就居せし時五十首
流るるか。此中。蓋世豪氣老未消
寶刀霜冷尚在腰。磨礪金龍山下石。提來欲斬
水中妖。といへる。いふ。なる。つとに
るん。けり。

龜田長興字穉龍號をバ鵬齋といひ。なまめ
たも。し。せ。詩文。世。て
あり。書ハ。顏魯公を。て。醒來飲酒醉來眠。

此法不仙又不禪。百兩黃金何可換。從來此是
我家傳。い。みづ。關東狂生とい

大田覃はその號を南畝といふ。森惚子とも。
竹羅山人ともいふ。狂歌狂詩に巧み。
い。高き名。清國のこと。
い。忠義空傳國姓爺。終看韃
韃奪中華。清風一自掃頭上。四百餘州罌粟花。

中。い。い。い。
け。い。い。
村田春海人。い。隅田の。い。菊塢

子^{イッニキ}をた^キん^キありける。

天龍寺の僧龍尊といへる。冷泉爲久卿此風を
あてて詠むに心をあつめり。六歳^{ロクサイ}ある
時よりやおいの故こゆる^{ナカ}をぞよめさうてん
あしめいなる^{ナカ}三萬はあありなるに長點^{ナカ}とて
させあひくちたえてなり。長點といへるをい
やごとももて秀奇よのもれさせあひなり。
ある時龍尊大和路より四國中國まで行脚
する。讃岐國白峯^{シラミチ}の山陵まであるなり。
しりありんぐれ^{シラミチ}あわめ^{シラミチ}なるは
な^{シラミチ}なるなり。は^{シラミチ}なるなり。は^{シラミチ}なるなり。
褒詞^{ホウジ}とてさしこみ。題詠の^{ホウジ}は長點とせされ。

事書^{コトガキ}の^{ニトガキ}の褒詞あるなり。下總國
関宿^{セキヤト}人飯野^{イヒノ}宜盛^{ギセイ}が京^{ミヤコ}よのぼりて。龍尊
奇^キなるなり。東國^{アヅキ}へかへるなり。は^{アヅキ}なるなり。
一時龍尊がいにるやう。江戸は木村主馬とい
人あり。こゝ日野家の風をよめびく。

武蔵野の系といふ長點^{ナカ}れをよめなり。
め^{ナカ}なるなり。人なるなり。は^{ナカ}なるなり。
か^{ナカ}なるなり。は^{ナカ}なるなり。は^{ナカ}なるなり。
野の^ノは。秋風^{アキフウ}なるなり。は^{アキフウ}なるなり。
は^{アキフウ}なるなり。は^{アキフウ}なるなり。は^{アキフウ}なるなり。
長點^{ナカ}なるなり。は^{ナカ}なるなり。は^{ナカ}なるなり。

紀の殿キの殿トは、之レまつりしとみ子といへる女を賀茂
真淵の門人なり。あまもさ哥人。又の名をやうは
孔子といひ。おいての後を管子スガコとあへし。真淵
家集モミコに紅子と書たり。また別女コトギトは管子と
いへるがあもとおもひし。家集一巻あり。梅此
頃フミの文花フミころの文二篇のせめて。何の時
清信院君の法フミより。ひなのうは益貝と
みぎとわせしなどあへし。また。かどけ
なとれり。清子キヨイコのゆとまをさへんもよると
いへる。磯はつとるもたれおいたのが
かゝしとるん。

うたひしきゆりしげ髪とるふかよもあつらん
るもとるゆりし。
よのふといへるは真淵の門人なり。鴉ヤドリ殿孟一の妹。
紀の殿は、之レまつりしとみ子といへる女を賀茂
真淵の門人なり。あまもさ哥人。又の名をやうは
孔子といひ。おいての後を管子スガコとあへし。真淵
家集モミコに紅子と書たり。また別女コトギトは管子と
いへるがあもとおもひし。家集一巻あり。梅此
頃フミの文花フミころの文二篇のせめて。何の時
清信院君の法フミより。ひなのうは益貝と
みぎとわせしなどあへし。また。かどけ
なとれり。清子キヨイコのゆとまをさへんもよると
いへる。磯はつとるもたれおいたのが
かゝしとるん。

秋のよき時を
かき^かけ^ける^るの^の日^日也

楠クス後シリ文藏忠積タタケといへるを村田春道の弟ある。他の

家よりなまこをいれぬ。楠後氏をた名のするえ
河邊月といふこゝは。

[illegible]

村田長藏忠何タミナリは春道の子なり。春海ロウトの兄人なり。
後ハル名を春郷サトとあり。號を巴顯義堂といへり。
真淵マヒ孔門人なり。哥あり。とあり。とあり。とあり。
ける。師よりとて立て世をさへうさるぬ。とあり。墓
碑文は真淵の撰。その詞あり。への書とあり。
あり。へのの哥とあり。とあり。とあり。長哥と得

徑五寸五分。重二百二十五錢。背作八乳。銘四字曰長宜子孫。外輪作八乳。間列鳥獸形。流雲邊。素鼻。銘二十八字。其五不可識。按博古圖載漢清明鑑。銘云。漢有善銅。出丹陽。和以銀錫。清且明。左龍右虎。尚三光。朱爵玄武。順陰陽。文昭同。而此云。新有善同。出丹羊。則為新莽之鑄也。明矣。莽之貨泉。儘有銅器。難得。隸續獨載新莽侯鉦。今此鑑之存于我。亦可珍也。善同即善銅。周禮典銅。作典同。丹羊即丹陽。漢按民校尉熊君碑文。歐陽作歐羊。古字假用。並可證也。知。丹陽は銅の異名なり。侯鯖録にん也。片倉元周は相摸國鎌倉人にて。その號と鶴陵と

い。醫道よきけり。世よけれり。屠蘓考。癰癰新書。傷寒啓微。產科發蒙。青囊瑣探。保嬰須知。雜病試效。腫脹彙編。痘疹規。麻疹則。靜儉堂治驗方。などの書をあはれけり。朱尋尊研記を書く。家。清人朱尋尊が研をあらわす。銘は壽之名山。如金如玉。君子用之。為霖為雨。とあり。竹垞と落款せり。朱尋尊研記を書く。

塩瀬諸鳥は世稱を和助といふ。真淵の門人にて。紀記歌集あり。せし人。江戸京橋よりあり。あや。四季題のう。

額は二所焼鐵してそのまゝとてなす。やがて
尼もたつてゐる。正徳年中に人ぞいひける。
かゝるは白樂天の長恨歌琵琶行。ちよき世にあり
てを服部元喬が小督詞などいひてむ打誦ト
くも。わぬふりぞせしむ。此外は文選の古詩十
九首。弘仁に御門の鞦韆篇。そのまゝとていひ
りける。宋詩はたつてたつてなるもの。楊誠
齋が體は。ちよきまゝとていひる。杜甫を
風流よとほく。王維李白はちよきまゝとていひる。
白氏文集。和漢
朗詠。わあふりよかゝる。唐詩選。
余のりりり。孫子集註二本。孫子本義一本。孫子

講意一本は。いつてもあつた。珍書ある。まゝとて
なす。こといひて。賣りて。集註は流布の刊本。
あつて唐本などいひて。まゝとていひる。今
本義と講意と。世にちよきとていひる。今
林氏に藏本。あつて。三略直解
一本。六韜直解二本。まゝとていひる。四百年
まゝとていひる。三略のまゝとていひる。三略の
まゝとていひる。曲直瀬氏の藏本。加藤清正に朝鮮分捕
本。清水徳がかりとていひる。示しとていひる。
やがて。六韜のまゝとていひる。書名などいひる。
試は流布に本。校合とていひる。あつて。う

萬曆。張居正。翁鴻業等。刪補の多し。歴々
洪武の劉寅が真面目と存し。なるを。
活字板の三略抄といへる。とも一本秘。
る。その名あり。人あり。る。

吉原の娼樓玉屋山三郎が家。建長七年。寫
せ。日本紀一部あり。る。といへる。り。
本あり。る。村田春海あり。る。
余が藏本。加藤清正の分捕本。なる。農事直説と
衿陽雜録と。合冊せ。り。朝鮮刊本
にて。一のむ。表。宣賜之記といへる。國王の朱
印あり。薄禱。萬曆九年十二月日。内賜吏曹
正郎金瓚。農事直説一件。命除謝恩。右副承旨

臣盧。と墨書。花押あり。永嘉
後學。金瓚叔珍。といへる。二の印と墨と押あり。
源義家朝臣と八幡太郎と號ける。を。源平
盛衰記廿九の卷。木曾義仲が願文。就中曾
祖父前陸奥守義家朝臣。寄附身於宗廟氏族。
自號八幡太郎以降。爲其門葉者。無不歸敬矣。
と見え。十訓抄六の卷。義家防戦とて。り
神の。若少れ齡。大なる矢と射るに。
その矢。り。もの。必た。と。
る。四重。軍と。け。あり。
圍。中。ぬ。入。度。之。稻光。と。
目と。ある。負仕。と。感。と。

八幡太郎と名づく。とありて其傳不同十訓抄に
説實なるんや。日本武尊の前蹤は似たりといふ
べし。陸奥話記にも夷人立号曰八幡太郎と書くあり。
春海の世はおよそ頃源氏物語よりこのあひだ
いさむれええころうづりしときなり。そのよきもこ
ゆりも。その家よく歌の會せしけりともあり。
橘千蔭。清水濱臣などある。かゝりあるをさへし
こと。ごかりしものなり。いづるものもなるも一に。
あのごろ余がゆめいまりするや。あなただ。おそ
いふべし。そハ源氏東屋の事なり。いさむれは
やうなる心地の一掃也と云ふ。うー乃やさげな
けしきどもこれ法まじけきとてつらけれ

とく。ふいふまへるが云云。多智丸巻。この君志
あゝあるを。あやゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。
ものごさるる。あゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。
あゝあゝ。誰かと。あゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。
せり云云。河海抄。あゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。
源平盛衰記十三の巻十一丁。あゝあゝ。あゝあゝ。
クヨリ来り。あゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。
リ。二三返。あゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。
踊上り。あゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。
真平。あゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。
思テ。あゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。
リトモ。あゝあゝ。あゝあゝ。あゝあゝ。

くろとして。あふ人のこころ。

江吏部集。五言奉試。賦得教學為先トモヲトといへば

古詩は。詩は賦物モノを用モトひ。自註。八十字成篇。

毎句用仲尼弟子名と見えたるごとく。

郊小路権中納言基綱卿の春日社祭記。あけ行

あふよとふづりくをいふは。南無か

そふれ大明神といふと。一ひづ。五とどの

ふは置く。十三首の法樂をなふは。例はこれ

あふべ。

武家調味故實。鳥を付るあふといふ條は。まは花は

枝は可付。但、櫻は祝言の所へあふといふあふは

不可付云云。其故は花はむきとてあふ七日とて

散行。間。日限とて。程ハジメなとてあふ

忌とてあふ。今俗三月は花月とて婚姻とい

ふ。かゝるたふはあふとてあふべ。

袋草紙三の巻。曾祢好忠三百六十首奇の中に。

なげやあけささぐねのさくらとてあふゆへに

げめをわねとてあふと。長能が狂惑のやうに

蓬が松といふやうにあふと。あふとてあふ

あふとてあふ。夫木抄雜十。家隆信實はあふ

あふとてあふ。三首あり。今按。古今著聞集飲食

部。道命阿闍梨修行。あふとてあふと。あふと

の物とてあふと。あふとてあふと。あふとてあふと

装ニ褰テ近江國マデ歸ル處ニ。又黑雲空ヨリ下リ。劍ヲ取テ東ヲ指テ行。道行取返サントテ追テ行。近江國蒲生郡ニ大磯ノ森ト云処アリ。追初ノ森也。道行劍ヲ取返サントテ此ヨリ追初ケレバナリ。と見えし追初の義とせしを傳會の説よてうけり。此湖水の邊なる地なるは。大磯の森と号する。大磯といふは。相模國の海邊あり。同名此例あり。さて後ノ字を老蘇と書さる。おも老の義よりかけり。於保伊曾れ保と省て。於伊曾といひより。うけし。と見えし。角太河原雨獨可毛將宿。と見えし。角太と

都奴太といひて。角の字をともあり。例なり。す。必隅の字を書きりといへ。本居宣長が説をきけ。近江の僧海量が今も紀伊國は廬前庄角田庄といひ。荒木田久花が萬葉櫛の落葉といひけり。大磯の森といふ。大磯祭の祝詞。四方四角と見え。遊仙窟も。四角といひ。元亨釈書十五の卷。越知山泰澄が傳。釋泰澄姓三神氏越之前州麻生津人。父安角云云。大寶二年。文武帝勅伴安以澄爲鎮護國家法師。養老之法。勅擢爲供奉賜号神融禪師。授以禪師位。天

通^{カヨ}へる人ぬあんきといひにけり。此文王を聖人の
 長^{カサ}なる人倫のむすこひなり。妻子ともいふ。心けぬ。けり。土
 岐家聞書。當方と屋形^{ヤカタ}といふ。惣て大名の
 宿所と屋形とや。元弘建武の頃。天下打つとき
 乱^{ミヤ}る時。濃州へ行幸有る。當國小嶋と云
 所。行宮と立ちし。定林寺殿抱御あり。是
 世治と御入浴の時。是と屋形と号して住居
 なる。勅定あり。法なり。云云。然^ル。聞
 土岐ハ殊に子細有^レ依て。其後。行宮と土岐
 郡へ引^ス。屋形と号せし。皇居の時。丸

柱に修理ありて今に至るまで残るゝ大名の宿所と
屋形といふ。是より始て諸家よりやうく傳へられ
ええ。屋形の造様のものも委いしあり。此屋形と
いふ名は古今大歌所、御奇は水莖ミヅキの岡オカのあつたに
妹とあまさと寐ネての朝明アサチの霜の降フはぬ。とある。餘
材抄は屋形はうきこよほりある屋に打聞ウキはあつて
とはきこひける殿舎はあつてうきと真似マシて
造ると云ふべし。なぞ注せり。玉葉旅部、燕鎮
の雨とぬ旅の屋形は日教へるが如くさか
ぶきのことといふ歌ええ。夫木抄世の卷カリヤカタは假屋形
ともめるもありく。うきと四首コレヲ奉ホウたり。此等いふ
こともかりめは屋の形はうきとあるをわらふ。和名

雖^ニ區分^ニ能^ク字^ノ之^ヲ深^ク思^フ之^ヲ非^ニ無^ニ一^ニ義^ニ矣^ニ將^ニ相^ニ合^ニ于^ニ
悉^ニ曇^ニ之^ヲ理^ニと^レん^ニ也^ニ今^ノ世^ノの儒^者讀^ハハ^ハ古^ノ意^ヲ
よ^クと^シて^テ所^レ謂^フ百^姓讀^ミハ^ハん^ニと^シて^テる^ニ。

山^州名^跡志^ニも^テ神^社啓^蒙な^どと^シて^テる^ニ。白^シ大^夫と^シて^テる^ニ。神^主
渡^過春^彦と^シて^テる^ニ。管^神と^シて^テる^ニ。酒^體と^シて^テる^ニ。老^夫と^シて^テる^ニ。
俗^説ハ^ハん^ニと^シて^テる^ニ。祢^宜補^仁と^シて^テる^ニ。論^ニと^シて^テる^ニ。
武^藏國^忍城^とば^ハん^ニと^シて^テる^ニ。成^田と^シて^テる^ニ。西^遊行^囊抄^ニ
二^ノ一^ノ卷^ニと^シて^テる^ニ。忍^城ハ^ハ成^田代^々ノ^守城^とと^シて^テる^ニ。成^田
城^とと^シて^テる^ニ。後^太平^記。豐^臣家^譜。宗^長東^路土^産
廻^國雜^記な^どと^シて^テる^ニ。引^テ記^スと^シて^テる^ニ。按^ス。楠^正行^と
と^シて^テる^ニ。連^行と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。御^行と^シて^テる^ニ。
お^のり^とい^ふな^どと^シて^テる^ニ。同^言と^シて^テる^ニ。成^の字^も訓^と

同^レ行^田と^シて^テる^ニ。書^とと^シて^テる^ニ。今^ハ字^音と^シて^テる^ニ。
呼^ハん^ニと^シて^テる^ニ。東^鑑ハ^ハ行^田と^シて^テる^ニ。書^とと^シて^テる^ニ。

文^章ハ^ハ西^蕃文^とと^シて^テる^ニ。世^の宣^命祝^詞な^どと^シて^テる^ニ。體^も
と^シて^テる^ニ。辞^もと^シて^テる^ニ。意^もと^シて^テる^ニ。奇^{くも}
妙^{くも}。序^の體^ハ。古^今集^の序^とお^のり^とい^ふ屋^と
と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。
と^シて^テる^ニ。後^のと^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。
川^行幸^和歌^序。庚^申夜^奉和^歌序[。]九^月十^三夜[。]
前^武衛^亭和^奇序[。]と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。
と^シて^テる^ニ。今^のと^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。
此^道と^シて^テる^ニ。と^シて^テる^ニ。近^頃契^沖法^師が^文ハ^ハと^シて^テる^ニ。目^と

武家功名記。上嶋氏下嶋氏支流。系圖と載レく。條々。天靖元年と云々。分註は北朝ハ嘉吉三

○公室叢書卷第一

○竺志舩物語旁註

二冊

は物語ハ大井三位物語として村田春海先生のおまゝにならば
僅ふ一の巻のみとて捨つたが故に校合して旁註せしむ
之。源氏物語の中より一き詞のかぎりと採てその一と出
らば物語として歌のみ文のく人よ。たゞは益ある也。源氏物
語の後は竺志船よつてそのへたをてなり。竺志船といふは
そのまゝの巻のその名をて然やめて標影ふたりなきなり之。

屋叢話初編

一冊

○松屋叢話初編

一冊

天正慶長の比より。今の人もでの事迹。或ハ詩歌書画諸
 伎藝は名あり。話はな何なくれと譽ほめある話はなど。き活いきあられ
 なる話はなめづめなる活いきかどあひあて。一段くはい出いでてり。ま
 珍藏の宝器。天祥地異もでも。とりよこままにあの甘あまく
 也。あるハ故事の考かんかくもまままま。いとありくるき有益の也。

○同編

一冊

此末尚數十編に及までも。陸續出づるも、其に擇行也。

○歌體辨

一冊
銅刻

長短。旋頭せんと。混本こんぽん。折句せきう。沓冠くわくかんよりして。長歌ちやうか。賦ふの躰たい。古詩こしより
似にゆる。躰たいの別けつ。樂府歌がくふか。俳諧はいかい連歌れんかなど。すべて歌の諸躰

○文體辨

一冊
嗣刻

と論別して世の歌人の心するところを眼をむくはに
體辨
文章正則としてかゝるの文辭明辨のさるふ編まうたる
長していふと稿と終らぬざるがゆゑよ。まづ文うく大意
と記して祝詞宣命の後ハ文章の及絶果あるより
論より終。文辭の別とこそやとの論して世の人の眼を

○古言補正

一冊 今年刻

古言梯の誤を正し。又もてゐる詞を補て假名遣の法
全成の書へ古言梯を持たる人。は書と合するべしある
べし。また附言は和漢文字書跡の沿革よりある
假字のりもてゐる論よりあるなり
二十 詞刻

○歷史歌考

七冊
嗣刻

六国史類聚国史。よひたる歌ども。童謡といたるまでと
古き諸注のむづかしい改正。新に考注せられたる也。

○千載集集成

○文集百首

○文章正則

○國名考

○衢杖占

○鹿嶋紀行

○天竺佛像記

○宇津々物語

梓行須原屋茂兵衛

江戸 英屋平吉

柏屋忠七

書林

京 文章 勝村治右衛門

大坂 大野木市兵衛

